民生委員 児童委員だより

あかり

第34号　編集・発行　高浜市民生・児童委員協議会　令和4年3月1日

ただ今、地域で活動中

今、私たちにできること

高浜市民生・児童委員協議会
副会長　浅岡　律子

新型コロナウイルス感染症が拡がり、コロナ禍での生活が2年以上続いています。1回目の緊急事態宣言が出された時は、多くの人がこんなにも長く、この状況が続くとは思わなかったのではないでしょうか。

そのようななか、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み感染予防や重症化を抑える決め手となることが期待されています。ワクチン接種の予約が始まったころは、電話やインターネットがなかなかつながらず、予約が取りづらい状況でした。私が接種対象となった時も予約を試みましたが同じ状況で、時間ばかりが過ぎていくように感じたものです。

コロナ禍の生活ではさまざまな行動が制限され、不安な気持ちになったり気分が落ち込んだりすることもありました。

今ではワクチン接種もほとんどの方が受けられて、ホッとしたのもつかの間、新たな変異株「オミクロン株」が現われました。

私達、民生・児童委員もすべての行事、施設訪問などが中止になりました。感染拡大予防の観点から、定例会も2部制で行っています。

今私たちにできることは、マスクの着用、手洗い、うがい、3密の回避などを徹底して、自分が感染しないこと、そして感染させないことです。

まだ時間がかかるかもしれませんが、一歩ずつ前に進んでいると信じて、今私たちにできることを心がけて頑張りたいものです。

これからも皆さんに元気に過ごしていただけますよう、地域住民の身近な福祉の相談役として、支え合いの仕組み、信頼関係を築いていきたいと思いますので、今後もご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

民生委員制度創設80周年記念樹

民生委員OBが手入れする様子

誰一人取り残されない社会を目指して。

高浜市長　吉岡初浩

民生・児童委員の皆様方には、日頃から住民の立場に立った相談・支援活動を通じて、地域福祉の推進にご尽力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

令和2年に引き続き令和3年もまた、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。コロナは、貧困、孤立、自殺、虐待などの生活問題を深刻化させ、これまで地域住民が築き上げてきた関係に大きな影響を与えました。高齢者はコロナ感染を恐れて外出を控え、結果として疾病や認知機能が悪化し、心身の機能低下、虚弱化、要介護化する方が増えるのではないかと懸念されます。そのような社会にあって民生・児童委員の皆様の日頃からの見守り活動は、まさに地域福祉の要であります。コロナ以前のように膝を交えての見守り活動は難しいですが、感染対策を取られたうえで、玄関扉越しの訪問や電話での声掛けなどは、孤立しがちな高齢者の方にとっても、大切な時間であったと思います。

さて、昨今新聞やテレビでもよく目にするSDGs（エスディージーズ）ですが、これは2015年に国連で開かれたサミットにおいて決められた、国際社会共通の目標です。17個ある目標の一つに「貧困をなくそう」という項目があります。貧困対策として、高浜市では生活困窮者への相談体制の充実化、経済的支援策などさまざまな方法で対応していますが、それらだけでは、貧困問題の根本的な解決に至りません。昔は困りごとを抱えている人は、地域の中で見守られ、また行政につながってきました。しかし、今は働き方や家族構成が変貌し、単身世帯、高齢者のみの世帯が増加しており、またコロナ禍もあいまって、困りごとが外から見えづらいという状況です。また、相談する方が窓口に来ていただかないと支援も行き届かないのです。民生・児童委員の皆様の日頃の見守り活動は、そのような地域の中で埋もれてしまっている困りごとを支援につなぐ大変重要なパイプ役となっています。SDGsのキャッチフレーズである「誰一人取り残さない」という社会の実現のために、引き続きお力添えをお願いいたします。

高浜市としましても、相互に支え合える「大家族たかはま」を目指し、多様で複合化している地域住民の困りごとに対し、制度の狭間に陥らないように広く受け止め、就労の問題、家計の問題、家族の問題など多様な問題に対応できるように尽力してまいります。

結びに、皆様方のこれまでのご支援に感謝し、さらなるご活躍をお祈り申し上げます。

ヤングケアラーについて

教育長　岡本竜生

民生委員・児童委員の皆様におかれましては、日頃より児童生徒の健全育成にご尽力いただき、誠にありがとうございます。コロナ禍にありながらも、市内の小中学校に通う児童生徒は元気に学校生活を送っています。様々な配慮や対策、工夫を重ねながら、修学旅行やみどりの学校などの学校行事も行っています。健康であることがいかに大切か、考えさせられる実感する日々です。

さて、新たな社会問題がクローズアップされてきました。家族の介護やケア、身の回りの世話を担う18歳未満の子どもであるヤングケアラーの存在です。ヤングケアラーの実態はこれまでよくわかっておらず、十分に支援されてこなかった側面があります。その理由としては大きく2つあると言われています。1つは、家庭内で起こっていることなので外に見えにくいことです。子どもたちの多くは、幼い頃から家族の介護やケアをしているため、今の生活を当たり前だと受け止めてしまう傾向にあります。他の家庭と比較できないので、本来は子どもが担うことではないと認識できずに、現状を発信できません。高校生ぐらいになって初めて気づくケースもよくあります。2つ目は、仮に助けを求めたくても、誰にどう相談してよいのかわからないことです。ヤングケアラーの周りにいる大人といえば、学校の先生や家族の介護やケアを担当しているケアマネージャーなどが考えられます。それぞれ学業や家族についての相談を受ける立場にありますが、これまではヤングケアラーで困っている子がいるという視点に立てていなかったことから、公的な福祉部門につなぐなど、十分に対応できなかった側面があると思います。仮につなぐことができたとしても、問題はそう簡単には解決しません。制度の問題や家庭の経済事情などは実に難しい内容です。しかし、高浜市が多くの方々のご協力を得ながら取り組んでいる「ステップ」や「ステップジュニア」、子ども食堂などは、これらの問題への対応のひとつとして確かな成果を上げています。実に意義のある取組だと思います。

まずは、多くの人たちが、ヤングケアラーの子どもたちがいるという視点をもつことが大切だと思います。民生委員・児童委員の皆様には引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

高浜市社会福祉協議会

高浜市社会福祉協議会
会長　**岸上　善徳**

冬の風物詩の代表に駅伝があります。コロナ禍にあって、昨年末には何とか恒例の全国高校駅伝が開催され、元日には全日本実業団対抗駅伝競走大会が、そして2日、3日には箱根駅伝が開催されました。ついつい中継所でのタスキ渡しの画面に見入ってしまいます。駅伝は、必ず次の走者に伝統あるタスキを手渡ししなければなりません。チーム内での厳しい競争の中から選抜された走者は、凄いプレッシャーの中で、一歩でも一秒でも前にと、力を振り絞って倒れるように次の走者にタスキを渡します。まさに精根を使い果たしたその光景は、様々な人生を歩んできた人、あるいはこれから船出しようとしている人々に感動と勇気を与えてくれます。

一方で、このタスキ渡しで気になる出来事の一つに、子どもの体力低下傾向があります。男子の体力が過去最低だったという令和3年度の全国体力調査は、小学5年と中学2年を対象にした、50m走などの8種目の成績であり、男子が小中ともに平成20年度以来最低だったのです。一喜一憂すべき事柄ではないとはいえ、スマートフォンなどの時間が増えた一方で、運動時間が減ったこと、さらに新型コロナウイルスの感染拡大による活動制限も影響したとスポーツ庁は分析しています。一朝一夕には身につかないのが体力です。一躍脚光を浴びたキャッチフレーズ、自分で鍛えてつけた「筋肉は裏切らない」という言葉が、なぜか脳裏にひらめきました。

また、高齢者の4人に1人が働く時代となり、身近な地域では役員などのタスキ渡しに苦労している実態が生じています。人生100年時代を迎えること自体は大変喜ばしいことなのですが、一方で生涯現役という時代、75歳まで働く時代を迎えつつあり、複雑な想いになります。

高齢化率は29．1％となり、高齢者の就業率は25．1％、いずれも過去最高を更新しています。中でも高齢者の就業率の高さは更新しつづけており、パート・アルバイトなどの働き方が7割を超え、その理由について男女ともに3割を超える人が「自分の都合のよい時間に働きたいから」と答えています。ここに地域活動参加への唯一の救い、望みがあります。是非ともこの少しの時間を、地域での活躍に充てていただけないものかと切に願うばかりです。

高浜市社会福祉協議会の理念は、「かけがえのない一人ひとりを大切にします。助けあい・支えあいの心を地域に広げます。だれもが幸せで笑顔あふれるまち「たかはま」を目指します。」というものです。これまでにも福祉サービスの支え手・担い手として多くの高齢者がタスキ渡しに参加されていますので一例をご紹介させていただきます。

平成6年10月に始まった**「ふれあいサービス」**は、地域の支え合いを通じて、皆様が安心して生活ができるようにお手伝いするシステムとして誕生し、有償ボランティアによって5つのサービスが行われています。**家事援助サービス、介護サービス、子育て支援サービス、障がい者自立支援サービス**のほか、車いすや寝たきりの状態で移動が大変な方を移送する**移送サービス**があります。

利用していただける方を利用会員、活動していただける方を協力会員として、会員登録をしてもらいます。利用会員には、年度会費をいただいています。協力会員は年度会費が不要となっています。このほか、資金の応援をしていただける方を賛助会員として、お願いしています。サービスを利用した際には、それぞれのサービスの1時間当たりの利用料金を支払っていただき、活動した協力会員には1時間あたりの協力料を支払うシステムとなっています。

日常生活に公的サービスだけでは解決できない困りごとを抱えている方と、支援に協力してくださる方とを繋ぐ住民同士の互助「ふれあいサービス」を更に充実するためにも、永年培ってきた技でご協力いただければと願い、紹介させていただきました。詳しくは、当会へお問い合わせください。

高浜市は、一昨年、市制施行50周年という記念すべき年を迎えました。当会は、民生委員・児童委員の皆様のご支援を受け、平成元年に法人化しました。私たちの願いは、歳を重ねてもいつまでも元気で意気軒昂とした生活をおくることにあります。しかし、社会的孤立、ダブルケア・いわゆる8050、最近では18未満の子どもたちが家族の世話を担うヤングケアラーの問題など、個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化しているのが今日です。生きづらさや地域の課題をみんなで考え、話し合い、協力して解決を図っていこうとする地域福祉活動こそが当会の使命であると認識しています。

民生委員・児童委員の皆様は、縁の下の力持ち的存在です。昨年末、地元で開催された認知症サポーター養成講座では、講師の一人として地元民生委員さんが活躍されており、地域での民生委員活動の範囲の広さに驚かされました。当会におきましても、日頃から心配ごと相談、高齢者給食サービス、歳末助けあいなどの様々な事業にご協力ご支援をいただいております。あらためてそのご労苦に感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願いする次第です。

部会紹介

高齢者福祉部会　横井光義

部会長として3年目を迎えました横井と申します。部会の目的は高齢者の安全・安心な暮らしを支える役目と考えていますが、我々の力だけでは到底達成できるものではありません。20年度の国勢調査報告を見ますと、65歳以上は人口全体の28％つまり、3千6百万人の数字を示す世界で最高（最悪？）の水準です。言い換えますと、一世帯当たり2．2人と減少中、高齢者一人暮らしが増加している事を意味します。

毎月開催される民生定例会で、時々、話題となります孤独死のような事例は聞くに堪えられません。核家族・地域社会の形骸化による孤独死は絶対無くす必要があります。我々が実施中の毎月1回程度の顔出し訪問では不十分とも感じています。

今後は、更なる家族内の助け合い・隣近所間の支え合いが必須だと思います。どんな些細な事でも結構です。情報を打ち上げて下さい。そんな下地が芽生えるよう、行政を中心とした諸団体・組織のあり方を勉強し、それらの取組強化を計ろうと考えています。

児童福祉部会　神谷義彦

部会長の大役を引き受けさせて頂いて早や2年が過ぎました。改めて児童福祉部会の活動について報告しますと、児童福祉部会は、市内の幼稚園・保育園・こども園・児童センターなどへの訪問、小中学校の先生方との懇談会、部会員の資質向上を目的とした研修会などの活動をしています。しかし、皆様もご存じの様にコロナ禍により、計画を立てても思う様に活動ができないのが現状です。

部会員の方にも申し訳ない気持ちでいっぱいです。

一刻も早くコロナ禍が去って平穏な生活が送れる様になればと思っています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いします。

障がい者福祉部会　中川正俊

障がい者福祉部会の事業計画に授産施設での作業支援がありますが、新型コロナ感染症の拡大により、支援事業の中止が余儀なくされ大変残念に思っています。今年度こそは、コロナが収束し作業支援ができると良いと思います。以前に授産施設へ行き感じたことは、施設へ行く前「授産施設はいったいどんな仕事内容なんだろう」、「利用者の方と直接話しを聞くことができるか」などの思いを抱えながら訪問しました。最初は、緊張と戸惑いがありましたが、時間が経つごとに利用者の方とのコミュニケーションもとれ、楽しく作業もできました。利用者の方は、働くことの喜びを感じ、任された仕事を、責任を持ってやっていると思いました。職員の方も、適切に対応しており気持ちよく作業に専念できていると思いました。又明るい職場にもなっていると感じました。実際に福祉の現場に行き体験することは、視野を広めるためにも、大切なことだと思いました。

あかりの会　内藤靖子

あかりの会は、民生・児童委員全員が所属し、地域福祉活動を行っています。

食事作りでは、月一回の担当で宅老所「こっこちゃん」・「じい&ばぁ」、学習支援事業「ステップ」で行う予定でしたが、未だ収まらぬ新型コロナウイルスの影響で、中止と再開を繰り返す活動になりました。

感染対策のため黙食となり、子供達の賑やかな食事風景が見られないのは寂しいですが、子供達は変わらず元気で、お腹いっぱい食べて満足そうな顔を見ると心が温かくなります。

グループホーム「あ・うん」の訪問は、今年度も中止となってしまいました。

コロナで生活様式が変化しても、人とのふれあいを大切にしていきたいと思っています。

新任委員紹介

昨年、民生委員・児童委員として就任いたしましたのでご紹介いたします。

※①氏名②担当地区③就任年月

①岩月（いわつき）　将（まさる）
②青木町四・五丁目
③令和3年6月

①神谷（かみや）　政光（まさみつ）
②湯山町四丁目6、7（1～8棟）、15、17
③令和3年8月

①杉浦（すぎうら）　裕司（ゆうじ）
②向山町五・六丁目
③令和3年9月

退任者挨拶

民生・児童委員を終えて　杉浦　さがみ

思いがけぬ病に冒されて中途退任となってしまいました。20年余りの任期中は意義のある時を過ごす事ができて幸せでした。

同僚・関係者の皆様には大変お世話になりました。皆様のご健康とご活躍を願っております。

退任にあたって　杉浦　しづ江

この度は体調不良の為、委員を退任することになりました。沢山の出会いや貴重な経験をさせて頂き、有難うございました。

民生委員退任によせて　矢幡　嘉子

高齢で、車の免許証を返納された方、膝、腰が不自由となり「買い物が大変」な方が多いのが現状です。

地方への研修会、施設の訪問ふれあい等、沢山学ばせていただき、楽しい思い出となりました。ありがとうございました。

見守りの訪問は拒否される方、楽しみに待って下さる方とありました。昨年は、新型コロナウイルスで、絵葉書、電話での訪問の一年間でした。

私事、体調不良での途中退任となり、地域の委員の方々には大変ご迷惑をおかけ致し、申し訳ありませんでした。感謝いたしております。

最後に委員の皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

新型コロナ禍での活動

会長　毛受保紀

令和元年12月頃より、みなさまもご存じのように新型コロナウイルス感染症が、発生しました。変異株により何度も繰り返される感染拡大で、私たちの生活は大きく様変わりしてしまいました。

そんな中で、私たち民生・児童委員協議会の活動も、大きく変化し、制限されてきました。二度の定期総会は、書面決議になりました。毎月一度開催している定例会は、緊急事態宣言では中止とし、まん延防止措置の発令では、検温、マスク着用、手指消毒、換気を行い開催してきました。また、密を避けるために2部制にて実施したり、時間短縮のため活動報告のある人のみの発言とするなど工夫して、感染防止対策を図ってまいりました。

定例会での活動報告は、それぞれの委員が訪問中に困った事案を提起したり、ベテラン委員の助言や、行政に指導を願ったりしています。また、訪問先での喜ばれた体験談を話し合ったりなんど、限られた活動時間の中で、最大限の活動報告ができるよう心掛けています。

新任委員の方は、一斉改選後早々に、新型コロナウイルス感染拡大が始まったために、研修、活動等が十分に行われず不安やストレスを感じながら活動されていたと感じています。

私たち民生・児童委員は、地域の生活課題に向き合い人と接することを基本とした活動なので、今般の事態ではお互いの安全を守りながら活動する難しさに直面しました。とくに緊急事態宣言が出された期間は地域の気になる方々の体調等、気をもむ日々を過ごしてきました。

毎月の見守り訪問、年に一度行われている聞き取り調査では、必ずマスクの着用、ソーシャルディスタンスを確保した対話、緊急事態宣言時には、電話やメール等にて対応してきました。しかし、対象者の個別性を配慮し訪問活動のあり方を統一することは馴染まず、個々の判断にまかせてきました。

私たち民生・児童委員はコロナ禍にあっても行政、社協をはじめ地域の皆様と連携し、常に地域住民に寄り添いながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して活動しています。

主任児童委員

『今』を大切に

杉浦　ゆみ子

今年も進級進学の季節が近づいてきましたが、コロナへの感染不安がゼロになる気配は無さそうで、マスク生活も三年目。

昨年も活動内容自体が減り、私が見たり聞いたりした事柄はほんの僅かでしかありませんが、紹介したいと思います。

○児童センター

ネットの活用で活動の様子を広く紹介。イベントは毎回盛況。友達とのかかわりや楽しみを求める子どもにとって不可欠な居場所。

○保育園

黙食ができる年長さんに驚きと共に感心。

○学校

柔軟な発想で、今だからこそのアイディアいっぱいの行事の開催。

等々、日々の子どもたちを見守る様々な立場の方々に支えられ、どんな社会状況にあっても、『今』を大切にして、心身共に健やかに成長してほしいと願っています。

イジメと向き合う

酒井　幸代

若者の口からよく出るリスペクト、尊敬を意味する英語です。反対語はディスリスペクト（ディスる）バカにする等相手を否定する時に使うようです。いつの時代も若者が発する言葉は刺激的で、社会の明暗を上手く捉えるなあと感心します。イジメるより軽いし、イジメられたよりきつくないと両者にとって、ごまかしのきく便利な言葉です。

二〇二〇東京五輪開幕前に、開会式の演目スタッフが、過去のイジメ経験を発言し、問題となり辞任しました。若気の至りでは済みません。イジメた人達も、人生ずっと自分の背に縛って生きていくのだと人々は胸に刻みました。大人になりどんな成功を収めても、過去の自分が足を引っ張るなんて、今イジメをしている人には想像もしないでしょうが、事実それは起きたのです。アスリート達の眩しい笑顔とハートの指文字は〝自分を大切に〟と教えてくれました。イジメで心を痛めている友に心から謝り、寄り添ってみませんか。傍観している人も、勇気を出し事実を伝えて下さい。

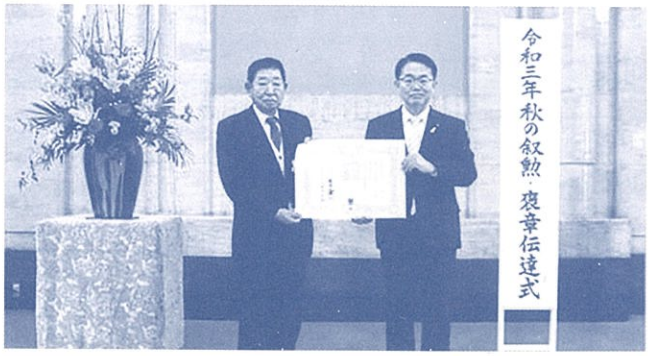
登下校時の見守り

藤浦　雅臣

コロナ禍により、顔の見える関係づくりが難しかった中、まち協さんの「児童安全見守りパトロール」には積極的に参加しています。児童が登下校中に事故や犯罪に巻き込まれることは多く、特に下校時は大人の通勤時間、中高生の下校時間とも重ならないため、全国的にも被害が多くなっています。地域の目は、児童の安心・安全のために重要な「身守り」の効果があります。

また、地域全体で考えれば、登下校時間に合わせ、ウォーキングする、犬の散歩をする、玄関先で掃除するなど、何かをしながら住民一人一人が「ながら見守り」を意識することで、より犯罪や事故が起こりにくい環境を作ることができます。

子供たちの笑顔を守るために主任児童委員として、一市民として、コロナ禍であっても自分ができるところから活動していきたいと思います。



深谷幸男（元民生委員・児童委員）さんが藍綬褒章を受章（愛知県庁にて）

市長との懇談会の様子

赤い羽根共同募金（市内スーパーにて）

あかりの会による食事づくり（学習支援：ステップ）

民生委員・児童委員とは

民生委員・児童委員は地域住民の中から選ばれ、自らも住民の一員という性格をもって住民の見守りや相談活動を行います。（担当区域をもって活動します）

主任児童委員とは

主任児童委員は、子どもや子育て家庭への支援を専門に担当する民生委員・児童委員です。（担当区域は持ちません）

住民の相談・支援活動

○見守り役として

高齢者の安否確認や見守りのための訪問活動を行います。

○行政などへのつなぎ役として

地域住民が抱える悩みや心配ごとなどの相談にのり、必要に応じて専門機関へつないだり、福祉サービスなどの情報提供を行います。

関係機関・団体との連携

○実態調査への協力

行政などの依頼に基づく担当区域内の高齢者世帯の状況調査などに協力します。

○共同募金への協力

地域の福祉活動に活用される共同募金の呼びかけに協力します。

地域福祉活動

○住民の居場所づくりや仲間づくり

高齢者や子育て家庭を対象にしたサロン活動などに取り組みます。

○地域の行事等への参加

地域行事や学校行事等へ参加し住民との交流を深めます。

仲間同士の情報交換や研修

○月1回の定例会議への参加

地域の民生委員・児童委員による月例の会議に参加し、委員同士の情報交換や地域の課題などについて話し合いを行います。

○研修会への参加

必要な知識などを得るための研修に参加します。

定例会の様子

各学校の担当委員

高浜小学校	神谷　厚典
吉浜小学校	毛受　保紀
高取小学校	川角　金和
港　小学校	岩月　正二
翼　小学校	神谷　真
高浜中学校	植田　幹雄
南　中学校	神谷　義彦

【編集後記】

新型コロナ禍の中で不安を感じた事も多々ありました。休校や在宅勤務等で生活様式も大きく影響を受けました。こうした日々の中で、家庭内のコミュニケーション、友人、近所の方々等との支え合いが増えた事もあったかと思います。将来への希望と不安が交差する日々ですが、民生・児童委員として高浜市の宝である子供たち、ご高齢の方々の笑顔が絶えることが無い様努めていきたいと思っています。

連絡先　高浜市民生・児童委員協議会
☎52-9871

あなたにできる“赤十字ボランティア”一緒に始めませんか？

高浜市赤十字奉仕団
団員募集中

赤十字の活動を支える地域のボランティア。
それが「赤十字奉仕団」です。

主な救護活動
〇救急法（心肺蘇生、ＡＥＤ）の訓練
〇応急手当講習会、幼児安全法講習会

主な奉仕活動
〇老人施設の慰問訪問、花の定植
〇街頭募金活動

人と人とのふれあいを大切に、明るく住みよい社会を築き上げていくため、活動を行っています。

ボランティアが初めての方でも大歓迎です。
男女問わず、団員募集中です。
高浜市内の居住者で、救護活動やボランティア活動に興味のある方、
下記の連絡先までお気軽にご連絡ください。

問い合わせ先
高浜市赤十字奉仕団　０５６６－５３－００５６

高取まちづくり協議会主催

あたまとカラダの体操

回覧

健康自生地
登録地

音楽に
あわせた
ゆるい体操

女性限定

	第１木曜日	第３木曜日
4月	7日	21日
5月	5日	19日
6月	2日	16日
7月	7日	21日
8月	4日	休み
9月	1日	15日
10月	6日	20日
11月	3日	17日
12月	1日	15日
1月	休み	19日
2月	2日	16日
3月	2日	16日

日時　毎月　第1・第３　木曜日

時間　午前10時30分～11時30分（受付　10時20分～）

会場　高取ふれあいプラザ　1階

内容　音楽に合わせて、ゆるくあたまを使った体操

対象　概ね　60歳以上

服装　運動靴（土足可）ベルトのない動きやすい服装

持ち物　タオル・飲み物

参加費　無料

新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては中止になる場合もあります

感染症対策

ご協力をお願いいたします

【問い合わせ】
高取まちづくり協議会事務局（平日午後1時30分～午後4時30分）
e-mail　tori-machikyo@katch.ne.jp　☎（0566-55-3894）

回覧

令和４年３月吉日

湯山町、神明・豊田町の皆様へ

翼小学校長　伊藤　宏
翼小ＰＴＡ会長　神谷　晃司

「安心おじさん・おばさん」募集のお願い

― 児童下校時の安全確保のために ―

早春の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今年度も、翼小学校の児童が大きな交通事故や犯罪にあうことなく、登下校することができましたのは、保護者や地域の皆様方のご配慮のおかげと感謝しています。特に翼小学校では、毎年、４月から５月末まで、まだ登下校に不慣れな１年生にボランティアの「安心おじさん・おばさん」が付いて下校してくださっており、交通安全と犯罪防止に効果を上げています。

しかし、ご登録いただいている方のご都合で参加できなくなった方もいらっしゃいます。通学路コースに複数の方に付いていただくためには、常に一定の人数が必要で、増員を図らなければなりません。

そこで、保護者や学校から、地域の方々に依頼させていただく形で、「安心おじさん・おばさん」を毎年募集させていただいております。何卒、ご理解、ご協力をお願いいたします。また、この件につきまして、親戚やお知り合いの方に声をかけていただければ幸いです。

１　該当する方　神明・豊田町、湯山町にお住まいで、児童下校時に共に下校可能な方

２　方　　法　(1)　応募いただける方は、学校へ電話かＦＡＸでご連絡いただくか、直接ご来校ください。締め切りの期日は特に設けていません。随時受け付けます。

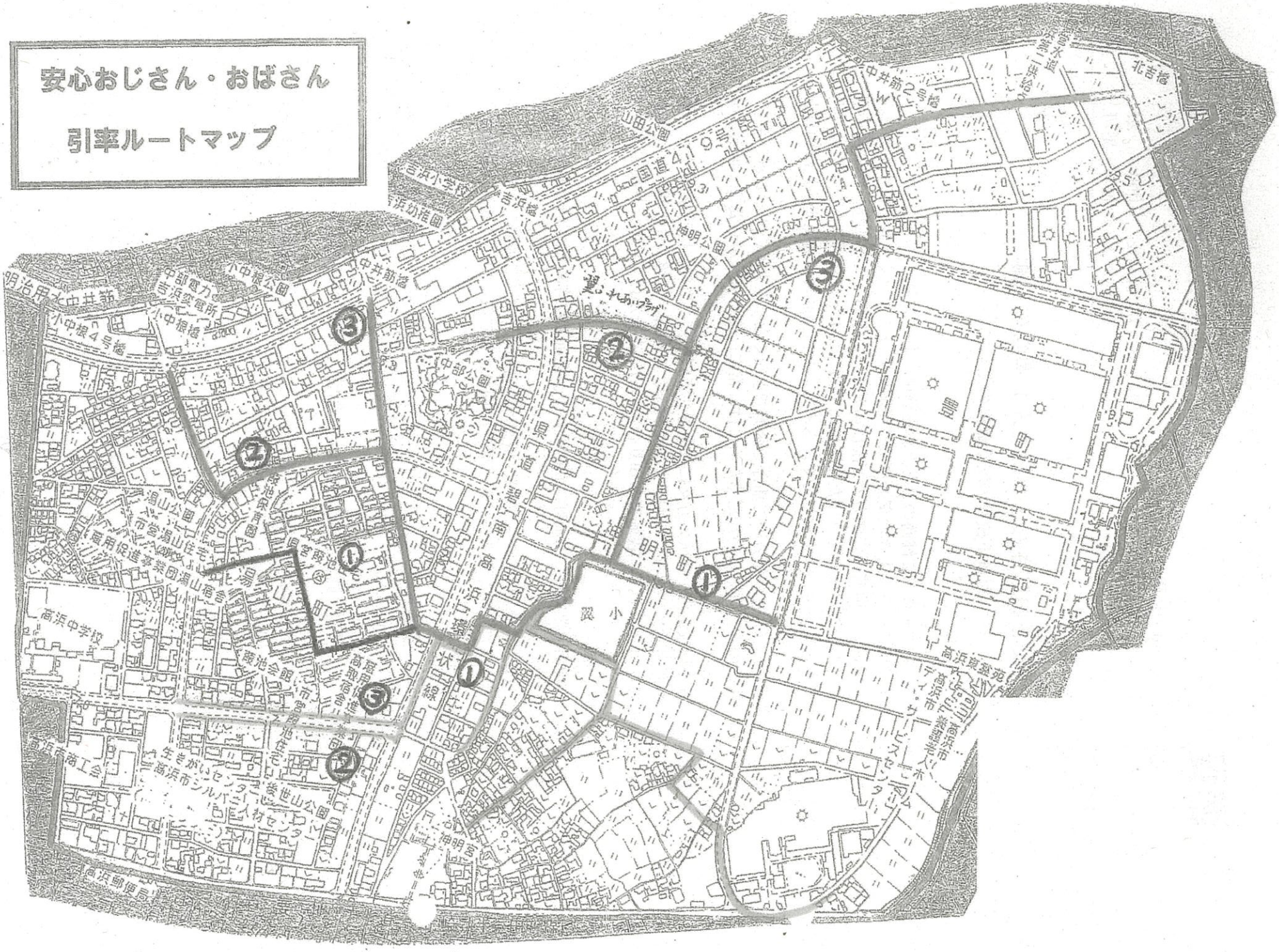
(2)　活動日は、４月７日(木)～５月末までの授業日ですが、ご都合のつく日で結構です。６月以降は、集団下校はしませんが、ご自宅付近で下校指導していただくとありがたいです。
（制服・制帽・名札・証明書・保険・月予定表は学校で準備します）

(3)　活動時は、学校にて活動簿に記入後、ご自宅に近いコースの１年生と同伴下校。（コースは裏面参照）

＜問い合わせ先　翼小学校・教頭　電話５４－２８３１　ＦＡＸ５４－２８３２＞

安心おじさん・おばさん

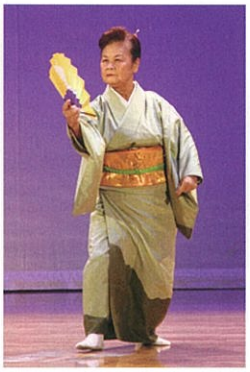
引率ルートマップ



たかはま文化

高浜市文化協会 祝 50周年記念
文協祭芸能発表会

高浜市地域交流施設　たかぴあ「メインアリーナ」



高浜市文化協会　〒444-1332　愛知県高浜市湯山町六丁目６番地４　TEL・FAX（0566）52－2983

選抜美術展

選抜美術展

第二十九回　春日の森　市民俳句・短歌・川柳の集い

俳句の部

一般の部　入賞作品

市長賞
赤とんぼ冥土の使いかも知れぬ　中川　庄嗣

県議会議員賞
なにもかもうまくいくわと秋日傘　浦川　裕文

市議会議長賞
柔らかき仮名の筆先天の川　稲垣　豊美

教育委員会賞
未完のまま傘寿迎えるセミの朝　都築　典子

高浜市観光協会長賞
赤とんぼうまく避け合ふ田んぼ道　浅野ともこ

高浜市商工会長賞
交差点すっと隣にあきあかね　野口　良恵

中日新聞社賞
排尿のコップ置く棚秋暑し　近藤　君子

小中学生の部　高浜市文化協会長賞

吉浜小学校
青い空雲がポツンと一人っ子　川崎　柊
雪化粧窓から見えたぼくの町　牧　真仁

翼小学校
空腹で山盛りご飯の積乱雲　松田　小暖

高浜中学校
せみの声包まれていく体育館　岡　莉李那

文化協会奨励賞

高浜小学校
初盆の空へむかってねぇじいじ　平松　勝虎
かぶと虫春日の森で探し出す　加藤　奏
とうめいなふゆのよぞらはほうせきだ　岡田　有珠
あかとんぼゆめをせおってとんでいる　田之脇流風
夏の花大きく咲いた大空に　ローフ　サディア
ふうりんは小鳥みたいに鳴いている　間瀬　咲良
弟もぼくもびしょぬれ水でっぽう　杉原　慧
しゃぼん玉行って来ますと一人旅　石川　美遥

吉浜小学校
競争だながしそうめんあぁまって　新実　詩織
夕立ちで軒下誘われパン屋知る　田中陽路里
せみたちがみんみん泣いて過ごしてる　河口マテウス
母の声セミにも負けずいい勝負　木村芽彩人
せせらぎに森の緑がうつってる　野々山琴美
クリスマス音と色のカーニバル　長谷川　唯
もくもくとにゅうどうぐもせいぞろい　高橋　莉子
海のすななみがつたえるうみの声　栄口　哲聖

高取小学校
たんぽぽが白くなったら旅立つ日　和田　杏菜
夕霞その奥にある君の声　安東　凛夏
かき氷一気に食べてうずくまる　塩地　音花
川遊び笹舟流れ夏の頃　神野　颯太
とけた雪草にひとつぶきらめいて　永田來純愛
はい後からぬき足さし足蟬を取り　増田　百花
カブトムシ戦うすがたすもうとり　板倉　駕玖
鬼みちのあかりがともる友の目に　岩下　茉白

港小学校
風りんの音でだんだんねむくなる　川口　ゆめ
瑠璃色の蜥蜴探して日が暮れる　六軒　緒美
カーテンがゆれて感じる夏の色　森　安梨
なつやすみかみのけきるよほぼみんな　木村アイダ
なつやすみせんせいいないかなしいな　上田　蒼馬
スイカわり右だ左だどこにある　杉浦　翔大

翼小学校
夏休みいそがしすぎるおばあちゃん　木田　郁海
炎天下木かげを探すサバイバル　都築　羽紗
ランドセルぼくといっしょに夏休み　山本　恭輔
天の川渡り祖父母に会いたいな　柳瀬　萌衣
どっしりと尻を据えたる南瓜かな　下村　涼真
暑い夏遠くに見えるゆらぐ塔　鈴木　隼成
流星は願いたくされさって行く　松田　美里
天の川流れる星でつりをする　堀　匠

高浜中学校
いつの間に私らみんな夜光虫　神谷　太登
アイスティー片手に再会のＬＩＮＥ　杉江　理佳
父の日になにもできない反抗期　酒井　太壱
友達を連れて来たのは春風だ　鈴木　優生
雨の音梅雨の日限りのＢＧＭ　山本　葉月
馬と一緒に暑い真夏を駆け抜ける　神谷　樹
かざぐるまかろやかに舞うバレリーナ　杉浦　由姫
公園で鳴いているのは木かセミか　鍋田　虹奏
息合わせきざむ足音大縄跳び　アダチムリロ

南中学校
新学期自分の殻を破る時　竹巻　好晃
体育祭声援の中風になる　松永　柚那
白靴が汚れるときはもう卒業　竹内　沙耶
声の無い少しさみしい夏の部活　中村　碧伊
雨上がり虹と私の２ショット　加藤ひより
向日葵と同じ笑顔でハイピース　永柳　夏葵

短歌の部

一般の部　入賞作品

天賞
紫外線前後の車輪に巻き込んで
風切り下る長い坂道　加藤かずみ

地賞
色彩を身に纏う秋ときめきを
取り返したしマスク投げる日　金野　アヤ

人賞
車イス激しく当たるラグビー戦
男蹴散らす女子の迫力　久野　和夫

高校生の部　文化協会奨励賞

つまらないいつでも僕は愛想笑い　　前田　蓮
本当の自分どこで無くした

今日もまたいつものように友と話す　　青木　良太
この平凡こそ最も幸せ

会えたのにみんなマスクで撮る写真　　加藤　周
うれしいけれど笑顔残せず

自転車に朝顔のツタ絡まって　　竹山　忍
待ってと夏が言ってるようで

しっとりとトマトの皮を剥く時の　　中根　稜太
指先が聴く太陽の歌

言えなくて逃げ出した夜目がかすむ　　ラニットマークルイス
ガラスのくつは私にはない

小中学生の部　文化協会奨励賞

南中学校

夏の日の部活一味違ってる　　大江　友翔
セミと楽器の大合奏だ

コロナ禍でオリンピックに明けくれて　　三上　真緒
自分もヒーローテレビかんせん

川柳の部

一般の部　入賞作品

天　賞　己れとの戦い挑む金メダル　　後藤　房子

地　賞　限りなく羽ばたく子らへ母の慈雨　　江崎　秀子

人　賞　これからを見つめる白い筆の先　　猫田千恵子

高校生の部　文化協会奨励賞

異常気象まさに今年は天気の子　　深谷　快翔

５Ｇ世界中と意思疎通　　鶴田　晏士

見上げれば誰もが同じ空の下　　佐久間花梨

総　会

○日　時：４月16日(土)　午前10時
○場　所：高浜エコハウス　２階

西三河部芸能大会

○日　時：10月23日(日)
○場　所：知立市文化会館

第49回　西三河部連絡協議会

○日　時：４月21日(木)
○場　所：へきしんギャラクシープラザ

西三文協美術展

○日　時：９月７日(水)～11日(日)
○場　所：安城市民ギャラリー

※尚、新型コロナウイルスの関係で、事業などが中止・延期になる場合が有りますので御了承ください。

編集後記

たかはま文化第119号の編集後記を担当することになり、なにもかも会長が携わる事が本当にいいのか疑問ですが、誰かが書かなければ前に進まず書き込みします。この、協会報も昭和47年５月15日発行の創刊号では「高浜文化」という誌名で縦書きでした。それから、昭和62年９月20日発行第35号からは「たかはま文化」という誌名で横書きになり現在に至っています。

協会報もその時代の編集委員の方が携わり、表紙の写真も文化財、風景写真、高浜史跡巡り、鬼瓦、ふるさとの祭り、アーカイブス、文協祭、総会等が表紙の１面に紹介されて、特に史跡巡りとアーカイブスは貴重な資料となっています。

この「たかはま文化」の編集と高浜市文化協会創立50周年記念誌「50年のあゆみ」が同時進行で行われています。

（村松　輝一）